JR東海労ニュース

№1951 2014年8月1日 JR東海労働組合

他人のけんか(他国の戦争)を買うとどうなるのか! 元自衛官が集団的自衛権の危険性をアピール!

7月28日付『東京新聞』に注目記事が掲載されました。「**集団的自衛権は他人のけんかを買うこと**」と題した元自衛官の訴えの記事です。この「けんか」とは、もちろん戦争のことです。

「自衛隊の仕事は日本を守ること。見も知らぬ国に行って殺し殺されるのが仕事なわけない」「自衛官時代に、国民を守り憲法に従うという役割を教わった」と、安倍政権が進める集団的自衛権の欺瞞制を訴えています。 裏返せば、集団的自衛権は自衛官にも支持されないということでしょう。

集団的自衛権とは、同盟国(特に米国)が行う戦争に、自衛隊が加担して戦闘行為



を行使することです。日本が米国に戦争を仕掛けた歴史(真珠湾攻撃)はありますが、それ以降米国が戦争を仕掛けられたことはあったのでしょうか?すべて米国からの宣戦布告ではなかったのではないでしょうか。

他国への戦闘行為は、やがて日本がテロの対象となることは、この元自衛官も主張しています。武力では平和が守れないことは、歴史が証明しています。

いつの時代も「防衛」「国民の生命・ 財産を守るため」などという美句に騙さ れ、気がついたときには若者は人殺しの ために戦場に駆り出されているのです。

安倍政権が進める集団的自衛権に騙されてはいけません!私たちJR東海労は、反戦・平和の闘いをより強化していきます。